

アルツハイマー病新規治療 ご案内及び当院紹介のご依頼



早期アルツハイマー病の患者さんをご紹介ください



皆様の日々のご診療の中で、アルツハイマー病が疑われる患者様がいらっしゃいます。近年、社会の高齢化に伴い、軽度認知障害(MCI)の方が増えています。この度、アルツハイマー病による軽度認知機能障害及び軽度の認知症の進行抑制を効能・効果とするレカネマブによる治療を当院でも開始しました。以下に該当する患者様がいらっしゃいましたら、当院脳神経外科の認知症外来へぜひご紹介ください。本薬剤の使用にあたり、厚生労働省から「最適使用推進ガイドライン」が発出され、対象者、使用方法などが厳格に規定されております。そのため、投与に至らない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

最適使用推進ガイドライン 投与対象となる患者（一部抜粋、改変）

- 認知機能評価 MMSEスコア 20点以上（レカネマブ 22～30点、ドナネマブ20～28点）
- 臨床認知症尺度 CDR全般スコア 0.5又は1
→ 軽度認知障害(MCI)及び軽度の認知症
- MRI検査が実施可能(例：金属を含む医療機器を植込み又は留置した患者は不可)
- 上記を確認した上で、アミロイドPET又は脳脊髄液(CSF)検査を実施し、Aβ病理を示唆する所見が確認されていること。

上記ガイドラインを踏まえ、ご紹介いただきたい患者様は、

☑投与期間、スケジュールを理解〔レカネマブ〕1.5年2週毎
ドナネマブ1.5年or1年

☑1か月の自己負担額と高額医療費の目安を理解
1か月あたりの実際の自己負担額10万円程度
* 70歳以上か69歳以下かや年収により異なる

☑MMSEが20点以上



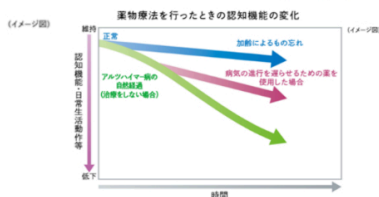
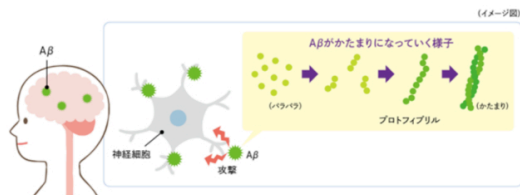
治療



上記説明を受けたうえで、認知機能低下進行予防のためにレカネマブもしくはドナネマブの点滴治療を希望

アルツハイマー病は、脳におけるアミロイドβ(Aβ)と呼ばれる蛋白質の異常が病気を引き起こすと考えられています。正常な状態では、Aβは産生されてもバラバラのまま脳から取り除かれますが、アルツハイマー病の人ではかたまりを作って脳の中にたまります。このかたまりが神経細胞を障害することで、神経細胞の働きが落ち、数が減って、脳の萎縮が進むと考えられています。

レカネマブ及びドナネマブは、「アルツハイマー病による軽度認知障害(MCI)」と「アルツハイマー病による軽度の認知症」に対する薬です。これらアルツハイマー病新薬はAβもしくはその前駆物質にくっつくことで、異物を排除する細胞のミクログリアを引き寄せ、Aβを取り除きます。その結果、脳のAβが減り、アルツハイマー病の進行が遅くなるのが期待されています。アルツハイマー病の薬には、今出ている症状を緩和するための薬と、病気の進行を遅らせるための薬があります。レカネマブ及びドナネマブは、病気の進行を遅らせるための薬で、認知機能の低下をゆるやかにすることが期待されています。



* 初回診察時はご家族の方と一緒にお越しください。

水戸協同病院 脳神経外科
問合せ・申し込み 地域連携室
TEL：029-233-9937
FAX：029-233-9916